

第1号議案

特定非営利活動法人 いちかわ市民文化ネットワーク（いちぶんネット） 2022（令和4）年度事業報告

I. 福祉事業部門

（文責：児童発達支援管理責任者 谷水秀光）

1. 放課後等デイサービス「ハクナマタタ」事業

- ①事業目的 障がいを持つ子どもたちの放課後の交流と学び、芸術活動を保証する。
- ②開設時期 通年事業
- ③事業内容 障がい児（当面中高生対象）の放課後の学びといちぶんネットならではのソフトを用いた芸術活動を楽しみながら、生活力・コミュニケーション力を育む場を確保する。
- ④場所 市川市国分 7-12-5
- ⑤定員 1日10名
- ⑥活動形態 障がい児童通所支援事業

<報告>

2022年度（開所9年目）は、利用契約者33名在籍であった。

コロナ禍での利用控えや各種補助金の減額・様々な物価高によって第一四半期は赤字運営となってしまった為、福祉部にて改革プロジェクトを立ち上げ運営の回復を目指した。内容としては、①職員の給与・手当・賞与の削減②諸経費の削減③利用者自己負担金の増額④土曜日開所の新設を実施し、第二四半期降運営の回復が見られ最終的に黒字運営にシフトすることができた。

2023年度は新規契約者が6件あり毎月の利用者数も安定していて例年に比べてもよい滑り出しを迎えられている。

今年度は放課後等デイサービス・ハクナマタタ開所10周年の年であり職員・児童一緒になって楽しむお祝いムードいっぱいの活動を展開していこうと考えている。併せて、コロナ禍以前に開催していた保護者会兼活動報告会“さんさんフェスティバル”の実施を望む声も多く聞かれるので再開を前向きに検討していきたいと思う。



2. 就労継続支援B型事業所「ハクナマタタ Café（仮）」の開設をめざす準備

就労継続支援B型開設準備については、放課後等デイサービスの改革プロジェクトに注力した為一旦保留とした。

Ⅱ. 芸術文化制作部門

【1】 活動・普及事業

1. スペース“にわにわ”の運営

(文責：名倉ゆみこ)

- ① 事業目的 舞台芸術並びに市民活動団体の協議による創造と交流の拠点を確立する。
- ② 開設時期 通年事業
- ③ 事業内容 市民芸術文化活動の創造と交流の拠点に期待する市民の声は高まっている。
今年度も、いちぶんネット芸術文化制作部の企画事業開催とオンライン配信を軸に、他の市民活動団体とのシェアスペース、時間貸しのレンタルスペース、各種サロンの開設、デッキスペースでの地域密着型販売支援等、より身近な利用を促進していく。
- ④ 場所 市川市菅野 1-1-23

<報告>

少しずつサークル等の活動も復活し始めて以前のにわにわの賑わいが戻ってきた。コロナ禍で低迷していたスペースレンタルとしての利用者が戻ってきた。交流・居場所サロンとしての役割を担うため「にわにわマルシェ」と「アート・サロン」を毎月2回開催。今年度事業の「いちかわ市民ミュージカル」の作業スペースや参加者との交流窓口としての役割も大きかった。



サークルでの
レンタル

にわにわマルシェ
で地域との交流が
うまれた



2. 「ユニバーサル・アート」が花咲くまちづくり！～輝く共生社会実現に向けて～(文化庁委託事業)

(文責：名倉ゆみこ)

- ① 事業目的 5か年計画事業の2年目として、共生社会の実現に向けた障がい者等による文化芸術活動推進プロジェクト。
芸術文化活動を通して、障がいの有無に関わらず市川市とその隣接地域の多様な分野の人たちと共に「共生文化社会実現」をテーマにしたシンポジウム、専門講師によるレクチャーカフェ、ワークショップなどの実践的な取り組みを行い、共感的な協働ネットワーク「ユニバーサルアート・ネット」の構築を図る。
- ② 共催 市川市文化振興財団、流山市生涯学習センター
協力 市川市社会福祉協議会、市川手をつなぐ親の会 他
- ③ 助成 文化庁委託事業

(1) シンポジウム

【テーマ】『演劇ワークショップを楽しんでハンディキャップのある若者のパフォーマンスを鑑賞しながら身体表現の可能性について愉快地愉しく語り合いませんか』

●開催日：2022年5月28日(土) 13:00～17:00

●場所：全日警ホール(市川市八幡市民会館)

●対象：当事者、文化施設、芸術団体、障がい者福祉事業所職員、企業、行政など、活動に興味のある方どなたでも参加自由。

●参加人数：46名

●参加費：1000円

●講師：西海真理(俳優、演出家)、齋藤匠(NPO法人チャレンジド・フェスティバル理事長)、YURI(本名：佐藤悠理 聴覚障がい者ファッションモデル)、小松よしあき(自閉症スペクトラムお笑い芸人)

●実施内容：演劇の手法を使った身体表現をシンポジウム参加者全員が体験し、言葉のない世界でのコミュニケーション、自由に開放的な身体の使い方などを体感。ハンディキャップのある若者のパフォーマンスの鑑賞。意見交換会と協働ネットワークの結成。

<報告>

参加者は当事者が6割、残りは支援者や福祉事業所関係者、パフォーマー、行政職員、文化会館職員など理想的な参加状況となった。

体験型のワークショップは、当事者と共に表現の可能性を体験できるとても有意義で実践的なものとなり、参加者からの終了時のアンケートでは高い満足感が得られた。

ハンディキャップを抱えながらも表現活動の夢を追いかけ実践している若者のパフォーマンスを目の当たりに鑑賞でき、その後の意見交換会でも参加者から多くの質問や、抱える課題についての発言など活発な意見が交わされた。社会包摂につながるアート&プレイの意義と必要性について具体的に話し合うことができ、今事業推進に向けた協働ネットワークの結成を意識する力強いシンポジウムとなった。

シンポジウム参加者募集チラシ

「ユニバーサル・アート」が深く浸透し「誰もが安心して参加できる」を目指して
2022年度第2回!

演劇ワークショップを楽しんで
ハンディキャップのある若者の
パフォーマンスを鑑賞しながら
身体表現の可能性について
愉快に楽しく語り合いませんか!

2022年5月28日(土)
13:00~17:00

会場：全日警ホール(八幡市民会館)
参加費：1000円 定員：50名

13:05~14:30
「からだであそぼう!」
演劇ワークショップ体験

14:45~16:30
シンポジウム

テーマ
「障害があるからかかろうが、誰だって“演”を見たい!」
「表現活動はどんな人生を築いているか?」

※「オムニバス」・「ミュージカル」の種別から見えること
※「オムニバス」・「ミュージカル」の種別から見えること

主催：全日警ホール
協賛：八幡市民会館
後援：市川市文化会館

お問い合わせ先
市川市文化会館 企画課
TEL: 04-39-71-2212 FAX: 04-39-71-2213



言葉のない世界で、コミュニケーションを楽しんだ「演劇ワークショップ」

ハンディキャップのある若者のパフォーマンス鑑賞とトーク



(2)トーク&レクチャーカフェ (T&L) 全4回開催

【趣旨】「ユニバーサル・アート」の発展像を巡って、講師を招きテーマ毎に学び合い語り合う。将来の地域文化交流の拠点となるべき会場を巡回して開催。

【1回目】テーマ『持続可能な市民文化芸術活動の作り方』

●日時：2022年12月3日(土)18:30~20:30 《オンライン対応有》

●場所：市川市文化会館 第2会議室

●講師：末永明彦(玉川大学芸術学部演劇舞踏踊科・非常勤講師)

●参加人数：30人(市民活動団体関係者、芸術プロデューサー、画家、市民ボランティア、福祉事務所職員、サロン運営者、他)

<1回目報告>

文化芸術は人や社会を変えることができるのか? 障がい者や幼児、児童を対象に芸術文化活動を行っている団体や個人が抱えている問題点や、未来像を「文化芸術基本法」の理念を基に公益性や収益性をとらえながら、地域連携コーディネーションを学びました。グルーフトークでは、それぞれが抱える問題点が浮き彫りになり共通項が多く、協働で取り組む意義を深めることができました。

【2回目】テーマ『障がい者アート&デザイン』

●日時：2022年12月11日(日)13:00~15:00

●場所：アトリエローゼンホルツ

●講師：福島治(グラフィックデザイナー・ソーシャルデザイナー)

●参加人数：9人(市民芸術プロデューサー、画家、キュレーター、市民活動ボランティア、福祉事務所職員、アート大好きな障がい者アーティスト 他)

<2回目報告>

障がい者アートを商業デザインに取り入れて商品化する団体（FUKUFUKU+）の福島氏を講師に招き、「シブヤフォント」「深川パラアート」の取り組みのスタート時から現在に至るまでの実体験、事業仕掛けのデザインなどを学んだ。心をつかむ企画書とアプローチの熱意など、参加者の心に火が付く満足度の高いレクチャー講座となりました。

そして後半は、『対話型鑑賞法』を用いて、参加者全員で「アート」を親しみ、コミュニケーションをとる面白さ、感性の刺激を「楽しむ」体験をしました。日常生活の中や街の中にアートがあることの意義、もたらず効果などを参加者同士が自由に発言しながら交流できたことも、このトーク&レクチャーカフェそのものが、アートを真中に捉えて人が集うということの実践体験となりました。



《2回目》テーマ『障がい者アート&デザイン』
障がい者アートをを用いての「対話型鑑賞法」

《3回目》テーマ『Jギャラリー&カフェへ行こう～アール・ブリュットって面白い～』

- 日時：2023年1月22日(日)13:30～15:30
- 場所：Jギャラリー&カフェ
- 講師：竹居正武、美佳、眺(コウ)
- 参加人数：6人（美術講師、障がいを持つアーティスト、デザイナー、市民芸術プロデューサー、市民活動ボランティア、福祉事務所職員他）

<3回目報告>

東京北区滝野川にある自閉症や知的障がいの者のアート作品を展示、販売している画廊で行った。自身の息子が自閉症であるギャラリーのオーナー夫婦の取組や地域ネットワークなどを、アートビリティ受賞作家の展示作品を見ながら、作品の向こう側にある作家のエピソードなどが大変印象深く語られた。障がい者専門のアートギャラリーの良さが十分に味わえたと参加者からの感想。

《4回目》テーマ『創造力の限界を超えよ！～展示作品の鑑賞&トーク～』

- 日時：2023年2月4日(土)13:00～14:00
- 場所：市川市文化会館小ホール ロビー
- 講師：藤田あかね(株式会社エーアンドエム)
- 参加人数：33人（当事者、アートサークル講師、画家、市民活動ボランティア、福祉事務所職員、一般参加者 他）

<4回目報告>

ユニバーサルアート・フェスのアートキュレーター藤田あかね氏による、展示作品を用いた「アート鑑賞&トーク」。会場ロビーいっぱいに展示した作品を使って、その場にいる観客も交えて作品を豊かに鑑賞する手法を学びました。作品の障がい者アート作家も鑑賞に参加し、作品制作のエピソードや家族の思いなども聞くことができました。展示してあるだけではわからなかった想像を超えた鑑賞ができた、参加者の満足度が大変高い講座となりました。

(3) ワークショップ

【テーマ】『アート&ダンスひょうげんワークショップ～たのしく自由にカラダとココロをうごかそう～』

- 開催日と会場：①アート：2022年10月9日(日)市川市立須和田の丘支援学校 講堂
②ダンス：11月23日(祝)流山市生涯学習センター 多目的ホール
③ダンス：2023年1月29日(日)市川市立須和田の丘支援学校 講堂
- 参加人数：①21人 ②13人 ③33人 ●参加費：1000円
- 講師：①藤田あかね(株式会社エーアンドエム)
②③安西真幸(振付師・ダンス講師)
- 実施内容：ワークショップは「Open The Window～窓のむこうに何が見える?～」をテーマに、コロナ禍であっても表現することの楽しさ、自由さ、開放感を楽しむ時間となった。できることをたっぷり、ひとりひとりが自由に動き、汗を発散させながら、最後は爆発的な開放感にあふれたパフォ

ーマンスを楽しんだ。

<報告>アートワークショップのテーマ『Open the Window』

丸い黄色いアート紙を「窓」に見立ててアートワークを行った。講師の藤田あかねさんが「窓」についての参加者それぞれのイメージを刺激。1歳8か月の乳幼児から70代のシニアまで、アクリル絵の具やコラージュの手法を用いて「窓」から見える世界を創る時間に集中しました。ワークショップの締めくくりは、自分の作品を皆の前で発表。ひとりひとり自分の作品についてマイクで語る高揚した表情。アート体験を通して表現する喜びに満ちていました。この作品は1月と2月開催のミラクル・アート展に成果発表として展示しました。

ダンス表現ワークショップでは、コロナ禍でなかなか自由に大きくか体を動かす機会がなかったので、広い会場で大胆に全身で身体表現を楽しみました。できることをたっぷりと、ひとりひとりが自由に動き、汗を発散させながら、最後は爆発的な開放感にあふれたダンスパフォーマンスを楽しんだ。参加者から「ダンスができるか心配だったけれど、表現することってこんな風にアプローチできるのかとびっくりした」「自分らしい自分をたくさん感じることができた」「初めて会ったのにみんなが好きになった」講師が伝える言葉や動きを、参加者の親や指導者が熱心に受け止めている姿が印象的でした。満足度100%の感想が溢れました。



「アートワークショップ」で自分の描いた作品の説明を熱心に行っています



流山市生涯学習センターとの協働事業で行ったダンス表現ワークショップ

(4) 「ユニバーサル・アート・フェスティバル」

【趣旨】アート活動を実践する千葉県、近郊の障がい者団体とアーティストがパフォーマンスやアートで日頃の成果発表を行う。舞台芸術の合同発表会「ミラクル・パフォーマンス」と美術・工芸展示会の発表会「ミラクル・アート展」を街の文化の中心となる文化会館で同時開催。会場は、流山市と市川市の2会場。

①流山市会場（共催事業：流山市生涯学習センター指定管理者アクティオ株式会社）

- 開催日：2023年1月15日（日）
- 開催時間：ミラクルアート展は10:00～17:00、ミラクルパフォーマンスは14:00～16:00
- 会場：流山市生涯学習センターロビー&多目的ホール
- 参加団体：パフォーマンス5団体（70名）、アート作品44点
- 総入場者数：194名

②市川市会場（共催事業：公益財団法人市川市文化振興財団）

- 開催日：2023年2月4日（土）
- 開催時間：ミラクルアート展は10:00～17:00、ミラクルパフォーマンスは14:30～16:30（YouTubeライブ配信）
- 会場：市川市文化会館小ホール ロビー&小ホール
- 参加団体：パフォーマンス7団体（190名）、アート作品40点
- 総入場者数：延べ人数550名
- 配信観覧数：視聴回数491回

③市川市内まちなかアート展

●開催日：2023年1月21日(土)～2月28日(火)

●会場：市川市内13店舗

●アート作品40点

<報告>

市川市とその近郊で障がい者のアート活動を実施する7つの団体と個人で活動するアーティスト合わせて42名の作品を、2市の文化会館ロビーと市川市内まちなか展示会場13店舗にて展示。10月に開催したアートワークショップで生まれた作品もロビーを彩りました。また、障がいのある人たちを中心に構成するパフォーマンス・カンパニー9団体が、ひとりひとりが輝くダンスや音楽のステージパフォーマンスを披露しました。聴覚障がい者の方もステージを楽しんで頂けるように手話通訳も取り入れました。

「ミラクル・パフォーマンス」では各団体の発表後、観客も客席で表現が楽しめるようにダンスレクチャーワークショップを取り入れ、ステージと客席が一体となりました。市川市会場ではステージパフォーマンスをYouTubeライブ配信も行い、会場に来ることができない方も遠隔でパフォーマンスを楽しみました。「アートとパフォーマンスが同じ空間で発表されていてとても良かった。」「次回もやってほしい」などアンケートには次回を期待する意見が多く寄せられました。

ミラクル・パフォーマンス
会場：市川市文化会館小ホール



ミラクル・アート展
ロビー会場いっぱい
アート作品を展示



まちなかアート展
中華料理屋など

3. 地域に共生文化の花を咲かせる「ユニバーサル・アートサロン」

(文責：名倉ゆみこ)

① 事業の目的

テーマは～生きるたのしみ、働くよろこび～。誰もが生きるたのしみと、働くよろこびを享受できる地域社会の創造に向けて、障がいのある人もない人も一緒になってイベントを企画・参加や協力をしながら【人、街、ユニバーサル・アート】を楽しく、元気に、思い切って！地域に共生文化の花を咲かせる支援事業。

3か年計画の2年目事業《ホップ！ステップ！ジャンプ！3か年計画 ～2年目ステップ計画～》

1. 「ユニバーサルアート・サロン」の定期開催継続
2. 障がい者の就労機会の創出「サロン・イベント～働くよろこびマルシェ～」
3. 協働ネットワークの構築
4. アウトリーチ型「出前ワークショップ」の実施

② 実施期間 4/1～3/28

③ 会場 スペースにわにわ、全日警ホール、須和田の丘支援学校講堂 他

④ 対象 障がい者とその家族、市民ボランティア、民間支援団体や福祉事業所の職員、アーティスト 他

⑤ 助成 中央ろうきん助成制度「カナエルチカラ」2年目助成事業

(1) 「ユニバーサルアート・サロン」定期開催継続

●期間：2022年4月26日(火)～2023年3月28日(火) 年12回開催(月1回)

●時間：13:00～15:00

●場所：スペースにわにわ

●対象：障がい者とその家族、子育て中の親、起業を考えている市民、市民ボランティア他

●参加者数：128人(1回平均10.6人)

●参加費：無料

●実施内容：障がいのある子どもや青年が地域の中で交流しながら「居場所と生きる楽しみを実感できる」としサロンを前年に続いて定期的に継続開催。アートや身体表現などの体験活動、仕事や生活の悩み相談、ゲームなどのレクリエーションのカリキュラムをひとりひとりの参加者に合わせて、障がい者を持つ家族も参加できる創造と活力のサロンとして定着化。

(2) 障がい者の就労機会の創出「サロン・イベント～働くよろこびマルシェ～」定期開催継続

- 期間：2022年4月14日(木)～2023年3月9日(木) 年12回開催(月1回)
- 時間：10:30～16:00
- 場所：スペースにわにわ
- 対象：障がい者とその家族、市民ボランティア、民間支援団体や福祉事業所職員、アーティスト他
- 参加者数：352人(1回平均29.3人)
- 参加費：マルシェ出展料1000円(1回)
- 実施内容：自分の得意を活かした作品創りや、パフォーマンスを挑戦(トライ)できる機会「マルシェ」を開催する。支えるスタッフも「商品化」「販売ルート拡大」の研修や実験の場としてユニバーサルアートの可能性を追求し、障がいのある人たち自身で「マルシェ」の企画・運営に挑戦し、自ら就労の場を創出するとともに、雇用の場を拡大していきます。そして「地域フェスティバル」(3年次)へとつなげる2年目事業。

(3) アウトリーチ型「出前ワークショップ」の実施

- 開催日時：①、2022年12月18日(日)14:00～16:00 ②、2023年1月24日(火)13:00～15:00
- 場所：須和田の丘支援学校講堂
- 対象：就労障がい者青年とその家族
- 参加者数：①、30人 ②、33人
- 参加費：1000円(1回)
- 内容：①音楽WS ②ダンスWS

<報告>

事業継続2年目も計画通り、サロンもマルシェも年間12回開催することができました。今年度6月に専用HPができ、SNSとの連携により広く周知できるようになりました。前年度から更に参加者が増えました。「働くよろこびマルシェ」では、障がい者他の市民活動団体からの補助的な仕事依頼が5回あり、マルシェやサロンを通して働く楽しさにつながる大きな成果が得られ、計画以上に取り組めたと実感しています。アウトリーチ型出前WSでは、市川市立の支援学校と連携し、就労障がい者青年、その家族等に豊かな芸術の体験を提供することができました。このことがきっかけで、サロンに通うことになった家族が2組できました。大きな成果です。

サロンとマルシェの案内チラシ



看板やのぼり旗を立てたり、にわにわの扉を開放して、道路からも中の様子がわかるようにした



市民ボランティアスタッフによるサロンの打ち合わせ

4. チャレンジド・ミュージカル活動

(文責：吉澤良美)

(1) チャレンジド・ミュージカル第13回公演

- ①事業目的 芸術文化活動を通して、障がいのある人たちの社会参加と社会貢献を促進する。
②開催時期・会場 2022年5月5日(木祝) 11:00と15:00 市川市行徳文化ホール I&I
③事業内容 「Mr. パーフェクト! ~OがXで、XがOで~」
④参加者数 (1)出演者49名 (2)スタッフとサポーター 50名
⑤協力・後援関係 共催：市川市文化振興財団 合同主催：千葉県文化振興財団
後援：千葉県、千葉県教育委員会、市川市、市川市教育委員会
市川市社会福祉協議会
協力：市川手をつなぐ親の会 他
⑥助成 日本芸術文化振興会、市川市市民活動団体事業補助金

<報告>

コロナ禍で第12回公演の千葉公演に続き、昨年度実施予定の2月公演も開催中止となっていたが、ようやく復活・実現できました。

障がいのある子どもたち、青年たちは、何度かの中止報告を受けても、決して諦めなかった。一席ずつ空けた観客の惜しめない拍手を受けて、彼らの達成感は沸き立った。まさに記念すべき公演となった。



(2) 劇団「JAMBO!」出前公演

- ①事業目的 芸術文化活動を通して、障がいのある人たちの社会参加と社会貢献を促進する。
②開催時期・会場 通年事業
③事業内容 ●「休日・日帰り限定の出前公演」 2回
●映像参加活動 1回
1. 2022年4月2日(土) 世界自閉症啓発デーin千葉
演目「チャレンジ・ミュージカル第11回公演 映像公開」
2. 2023年1月15日(日) ミラクル・パフォーマンス 流山会場
2月4日(土) ミラクル・パフォーマンス 市川会場
演目「Open the Door」
④参加者数 劇団登録者 35名
⑤協力・後援関係 市川手をつなぐ親の会 他

<報告>

前期はコロナの影響によりイベント参加は無し。ミラクル・パフォーマンス出演に向けて10月より稽古開始。新たな演目に挑戦しました。毎年恒例のクリスマス会は仮装大会になっています。



5. いちかわ子ども茶道&日舞教室 2022

(文責：松藤恒夫)

- ① 事業目的と内容 伝統文化を楽しむことで、地域と生活と自己への新しい発見に期待する茶道・日舞教室
- ② 開催時期 日舞教室 8月23日～11月8日(毎火曜日)スペースにわにわで稽古9回
茶道教室 10月2日～11月6日(毎日曜日)スペース四季彩で稽古6回
- ③ 講師 日舞・花柳錦女 茶道：松藤典仙、松藤仙真
- ④ 参加者 園児～中学生 日舞6名 茶道17名
- ⑤ 成果発表会 11月13日 (スペース四季彩) 観客：家族、近隣住民ら40名ほど

<報告>

茶道教室はコロナ禍の影響で3年ぶりに開催。まず講師の模範点前の見学から始まり、着付け、礼儀作法、立ち居振る舞い、茶の点て方、道具の扱い方、お客としてのお菓子やお茶のいただき方、客のもてなし方を、それぞれの作法の合理性や美しさを感じながら楽しみました。

日舞教室は着付け・裾裁きや扇子の扱い方になれさせ、下級生と上級生に分けて別々の演目を変えての踊りや一緒に同じ演目を、互いに刺激し合ったり上級生が下級生を面倒みたりして、難しい伝統的な古典の踊りをじっくり習得して楽しみました。

合同発表会には稽古の成果を日舞・茶道と続けて披露し、発表後は、茶道の生徒たちが代わる代わるお客に菓子と抹茶をもてなしました。



6. いちぶん日舞教室

(文責：松藤恒夫)

- ① 事業目的と内容 日本舞踊の基礎を学びながら、和文化の所作等を学ぶ
講師：花柳錦女
- ② 開催時期 隔週火曜日 18:00～20:30 前半/キッズ 後半/大人の部
(二部制) 会場：スペースにわにわ

<報告>

11/13文化庁子ども教室発表会に友情出演して日ごろの成果を発表した。



7. 消費者啓発出前劇団「コント de げき隊!」2022

(文責：吉原 廣)

- ①事業目的 コントを通して、消費者被害防止啓発活動を行う。活動再開
- ②開催時期 通年事業
- ③事業内容 蔓延する消費者詐欺被害防止を啓発するため、コントを作成し、県内各地の県民講座並びに自治会、イベント、公民館行事などで上演する。「高齢者虐待防止」も取り上げる。
- ④会場 市川、松戸、野田、鎌ヶ谷、松戸市で計5会場
- ⑤参加者 4～6名(1回あたりの出演者)

<報告>

コロナ禍で在宅時間が増えた高齢者を餌食とする詐欺事件が続発する中で、出前公演中止を余儀なくされた劇団員は忸怩たる思いであった。それでも8月から年度末にかけて、千葉県との協働連携事業として、延べ180名を対象に被害防止コントを実演した。



8. いるんおるん

- ①事業目的 働く障がい青年のための癒しと交流カフェ
- ②開催時期 2022年4月13日(水)～2023年3月26日(日)

定期開催は、毎月2回 水曜日と金曜日
スペシャルイベント 2回 計年26回実施
16時30分～18時30分（※感染予防の為、時間を調整中）

- ③事業内容 障がい者就労青年の癒しと活力を生み出すための交流の場を構築する
相談、アート、音楽、ゲーム等
- ④会場 スペースにわにわ
- ⑤対象者 働く障害者青年
- ⑥参加者 参加者累計321人（1回平均12.35人）、スタッフ 3名
- ⑦参加費 500円（1回）
- ⑧助成 年賀寄付金チャレンジ助成 4年目（最終）

【内容】

交流プログラムでは参加者同士がリラックスした関係の中で交流できる工夫をしました。専門講師によるプログラムでダンスやアート体験を実施。仕事の悩みや不安を相談する時間もサロンでは重要な位置を占めました。カフェ準備やプログラム企画などを参加者自身が楽しみながら行えるよう自己肯定感を高めるプログラムに取り組みました。

現状では社会に進出した障がい者青年たちを職場に気軽に迎え入れる余裕はまだ無く当事者の抱えるストレスは相当なものであります。自由に集い、安心でき、悩みを相談しながら自ら生きる力を再生していく交流拠点は地域に不可欠。

<報告>

コロナ禍ではあったが「定期的に集まれる居場所づくり」の為に、感染予防に注意し、参加者の体調チェックを丁寧に行いました。プログラム内容も専門講師、スタッフと共有し打ち合わせを重ね、昨年度から実施している参加者と共にイベントプログラムを考える取り組みを積極的に行いました。結果、相互に魅力的な交流プログラムが誕生し、目標である「参加者によるカフェ運営への積極関与」を実現するための実践的で具体的な取り組みができました。

社会包摂的な役割を担う居場所作りの必要性が叫ばれる今、働く障がい者青年を芸術文化活動で繋げるこの「いるんおるん・カフェ」事業は、4年間の取組で大きく発展し、社会にその必要性を実践を持って示すことができました。働く障がい者が就労時間後に過ごせる居場所、悩みが相談でき交流活動を提供する場は全国でも大変少なく、先駆性があり、まだまだ発展し続ける必要のある継続事業と考えます。

※参加者、ボランティアスタッフからの感想

- ・仲間が好きです（女性）
- ・今日は何をしようかと一緒に考えます。ありがとう（男性）
- ・みんなで電車でお出かけしたいです。コロナが明けたらよろしくお願いします。（男性）
- ・歌が好きです。ダンスの時間も好きです（女性）
- ・仕事で少しイヤなことがありました。でも、話を聞いてくれて元気ができました。（女性）
- ・いつも楽しい（男性）
- ・絵をもっとかきたい。たのしんでいます。（男性）
- ・社会貢献ができ、ありがたい。やりがいを感じる。（ボランティアスタッフ）
- ・明るく帰宅する子どもの姿がとても嬉しい。楽しんでいる様子が目に浮かびます。これからもよろしくお願いします。（保護者）



受付や会場準備のお手伝いも参加者自身で行うようになりました



クリスマスイベントでヨッシーサンタがお菓子を配ってくれました

【2】 人材養成事業

1. NPO研修 「いちぶんネット改革プロジェクト研修」 (文責：吉原 廣)

2022年度2月より、スペースにわにわにて、地域連携コーディネーターの末永明彦氏を講師に月2回実施。参加者平均12名。芸術基本法や劇場法の学習から始めて、NPOとしてのいちぶんネット20年の活動を整理し、今後の展望を確認した。5月末を持って一時終了とした。

【3】 調査研究事業

実施せず

【4】 広報・出版

1. 広報誌「いちぶん通信」の発行（会の活動広報、情報公開） 年 2回発行

2. ホームページの公開・更新（活動情報の提供） ホームページは見直し案が出ており、2023年度に持ち越しする

3. フェイスブックなどのSNSを使用した広報 いちぶんネット公式Facebook、いちぶんネット公式Instagram。その他に、にわにわや劇団ジャンボ、チャレンジドM、いちかわ市民Mなどそれぞれ事業ごとにSNSのアカウントをつくり、定期的な発信を行っている。

【フォロワー数】（2023年3月末時点）

いちぶんネット公式Facebook：606人 いちぶんネット公式Instagram：84人
チャレンジド・ミュージカルFacebook：130人 劇団JAMBO!Facebook：28人
劇団JAMBO!Instagram：60人 劇団JAMBO!Twitter：39人
荷風通りにわにわマルシェFacebook：27人 にわにわマルシェInstagram：320人
いちかわ市民ミュージカルFacebook：578人 いちかわ市民ミュージカルInstagram：149人
いちかわ市民ミュージカルTwitter：244人 いちぶんネット公式LINE：友だち106人

【5】 協働・支援・ネットワーク事業

(文責：吉原 廣)

1. 「いちかわ市民ミュージカル第10回記念公演」支援事業

- ①事業目的 三世代市民による舞台芸術の創造と交流並びに地域づくり。
- ②主催 主催：いちかわ市民ミュージカル実行委員会 共催：市川市文化振興財団
- ③開催時期・場所 2022年9月24日（土） 1日2回公演
会場：市川市文化会館大ホール
- ④事業内容 「NEXT!～いちかわ黄金伝説」作・演出：吉原廣 音楽：藤代敏治 振付：安西真幸
- ⑤参加者数 幼児からお年寄りまで140名
- ⑥後援・協力 千葉県、千葉県教育委員会、市川市、市川市教育委員会 他
- ⑦助成 リコー助成

<報告>

「NEXT!～いちかわ黄金伝説～」

コロナ禍いまだ冷めやらぬ9月24日（土）、出演者140名・観客1600名で2回公演を開催。“わが街いちかわ”の戦後に台頭した市民文化活動の六つのエピソードをオムニバス風に紹介して好評を獲得、「いちミュ」の存在意義を改めて問い直す作品となった。



2. 「いちかわ市民ミュージカル創造・体験活動 2022」(実行委員会事務局担当)

- ①事業目的 子どもたちが青年や大人と協力して、舞台芸術の創造活動体験に取り組むことで、創造する喜びと達成感と自己肯定感を獲得し、豊かで文化的な人間性を養っていくこと。また、地域の三世代市民交流を通して、子どもたちに郷土愛と地域社会の一員としての自覚を育成していくことを目的とする。
- ②開催時期 2022年5月14日(土)～9月19日(祝) 全35回
- ③開催場所 市川市全日警ホール、グリーンスタジオ、他
- ④事業内容 三世代市民による市民ミュージカルの創造と交流体験活動
- ⑤参加者数 ①参加者 子ども70名 大人70名 計140名 ②スタッフとサポーター 40名
- ⑥助成 子どもゆめ基金

<報告>

5月14日(土)～9月19日(祝)の全35回(うち1回は感染拡大のため中止)を実施。全参加者140名の半分を占めた子どもたちの、コロナ禍で制限されていた活動エネルギーが爆発するかのような積極的な奮闘が見られた。特に中学・高校生の活躍が目立ったが、一方で学校の部活動との兼ね合いで欠席率も高く、この世代はずいぶん多忙な生活を送っていることを実感した。



3. 赤レンガをいかす会(支援)

市川市国府台にある「旧千葉県血清研究所内の赤レンガ倉庫」の再生活用法についての学習研究活動を「赤レンガをいかす会」の若手ユース組を中心に進めて、その成果を2022年11月、市川市駅南図書館にて、写真パネルとともに展示し、評判を呼んだ。

4. 市民文化サークル活動支援事業

- ①市民サークル活動支援 シニア劇団波瀾ばんばん座、劇団ポラーノ、劇団市川座、市川邦楽連盟、ダンス集団おやじ du ソレイユ、SHIZUKUなど、要請のあった市民サークル活動の事務、チケット販売、当日受付など様々な形で支援した。

- 市川市邦楽連盟・劇団市川座・市川市 共催公演
「遷東綺譚」(原作:永井荷風 脚色。演出:吉原廣)の協力支援
2023年3月4日～5日 市川市文化会館小ホール